

萩・海の学びトレインツアー実行委員会（萩博物館・萩市観光協会など7者による組織）

萩・海の学びトレインツアー

実施期間：平成27年7月20日（月）～12月6日（日）



【事業の目標】

- 「歴史の町」のイメージが強い山口県萩市において、市内に散在する「海」の素材と海辺を走る鉄道を活用し、列車で海をめぐる「海の鉄旅」という新しいコンセプトのツアーを行うことにより、「海」を新たな萩の魅力として市内外のファミリー層に感じて頂きます。
- 生物・地質・文化・食材など、多様な5つのコースから萩の様々な海の要素に触れ、参加者自らが謎を解き明かす機会を作ることで、今後も継続して海に関する様々な事象に関心をもって取り組む力と意欲を養います。
- 海に携わる様々な立場の人々との交流や、地域の海の現状や課題に触れ、感じる機会を作ることで、参加者自らが故郷の海洋環境・生物多様性・生活文化を未来に残すことの重要性に気づいてもらいます。

活動の様子

■ ジオクルージングコース

【開催日時】平成27年8月1日(日) 10:00~17:00
8月22日(日) 10:00~17:00

【開催場所】萩博物館~JR山陰本線~萩市須佐地域

【参加者数】92名(8/1:47名、8/22:45名)

【目標・内容】

本事業を構成する5コースの1つ「ジオクルージングコース」は萩の海岸地形にスポットを当て、萩市北東部の須佐での遊覧船による地質探検をメインに、風景・食材・漁業などを組み合わせ、「海の鉄旅」にアレンジしたものです。萩博物館(集合)→萩駅→《特別列車「萩びーびートレイン」(海のバイキング・車内イベント)》→須佐駅→海の名勝「置岩」→須佐湾クルージング→須佐駅→《特別列車(車窓鑑賞)》→東萩駅→萩博物館。キャラクター・トーク・クイズ・実験を散りばめエンターテインメント化することで、海への関心を次第に高め能動的に海を楽しみ学べるよう工夫しています。



ツアーのチラシと看板。好評で、定員の2倍近い応募がありました。



萩博物館での受付風景。この後、意気揚々と「海の鉄旅」へ出発！



特別列車に乗りこみ、萩市北東部・須佐への「鉄旅」が始まりました。ところが途中駅でいったん下車。そこには地元の漁協女性部の方々が萩の「海の幸バイキング」を用意して待機。参加者は女性部の方々と語りながら好きな料理を弁当箱につめて列車に戻り、萩の海を「舌」で楽しみながら再び鉄旅を続けます。車内では萩博物館の海洋担当研究員が扮する「萩博之助」(はぎ・はくのすけ)が車窓から見える海にまつわるトークを繰り出し、「目」と「耳」で参加者を楽しませ、萩の海への関心を高めます。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



須佐へ向かう途中、列車は再び別の駅に停車。「ジオの女神・メグ」なるキャラクターが乗りこみ、「大地を創造した自分の許可なくこの先には進めさせない」と言い出し、車内は騒然。萩博之助の仲介により、メグが繰り出すクイズをクリアすれば先に進めることに。車窓から見える海岸地形を構成する花崗岩や安山岩を「カコ」「アンディー」といったメグの分身のキャラクターに例えて親しみやすく紹介。これで目的地・須佐での地質探検のウォーミングアップができました。



目的地の須佐で下車。まずは須佐の海岸にそびえる名勝「豊岩」へ。独特の地層の成り立ちを「大地の女神・メグ」が実験で紹介した後、それぞれが思い思いに手で触れたり、堆積岩に埋まっている海洋生物の化石を探索しました。そして最後に本日のメイン、「須佐湾遊覧船」でのジオクルージング！地元漁業者の漁船に「大地の女神・メグ」ほかアシスタントが同乗してガイドしつつ、奇岩、洞窟、高さ100mもの絶壁などをめぐり、海上アドベンチャーを満喫しました。

往路の列車で海の幸や風景で海へ興味づけし、海と地形の関係、地形を織りなす岩石の秘密へと段階的に関心を高めてから目的地へ乗り込んだため、目的地・須佐での地質探検が単なる見学に終わることなく、予備知識と目的をもって取り組む「真のアドベンチャー」になったものと思われます。参加者によるアンケート結果も好評でした。